



衣川 寛介

『シスレーのバラ 「絆“KIZUNA”」』

2015年 5月23日、福崎に住む友人からシスレーのバラが姫路駅の前で綺麗に咲いているよと画像と共に知らせてくれました。

銀の馬車道の設計者であるフランス人技師レオン・シスレーが明治時代に母国へ送った、馬車道沿線のノイバラの種子を基に、フランスで改良されたバラです。東日本大震災の被災地復興の願いを込め、『絆』と命名されました。

フランスとの交流促進と、被災地の復興を祈念して、この地に植栽されました。

(植栽日：平成26年 3月11日)



福崎町田原には見学する場所がたくさんあります。柳田國男生家、柳田國男・松岡家記念館、神崎郡歴史民俗資料館、旧辻川郵便局、大庄屋三木家住宅、もちむぎのやかたなど、その一つにハートフルガーデンと呼ばれる庭園があり、そこで、シスレーのバラのことをガイドさんに教わりました。看板には上記の文章が書かれています。

しかし、130年以上も前の馬車道の設計者の名前を付けたバラが2011年（平成23年）3月に発生した東日本大震災の被災地の復興を祈念して、今頃2014年（平成26年）植栽されたのだろうか？姫路市長のブログの中にその理由を見つけました。立役者は白井智子先生、姫路日協協会会長（前獨協大学准教授）から、フランスで誕生し、「絆」と命名されたバラが姫路市へ寄贈されました。白井先生による、このバラにまつわるお話は以下です。

シスレーは、出身地リヨンで園芸家として活躍し様々な園芸・農業関連の雑誌の発行に携わっていた自分の父親であるジャン・シスレーに生野から日本のノイバラの種を送りました。この種は、ジャン・シスレーの友人で、リヨンのバラ育種の名家ギョー氏に渡り、ギョー氏はその種をフランス向けに改良し、別のバラを産出、そのバラはリヨンを中心としてフランス中に広まっていきました。この度フランスにおいて当時のフランスの園芸雑誌や農業雑誌をフランス国立図書館やリヨンの公文書館などで精査したところ、レオン・シスレーの生野からの手紙やジャン・シスレー自身による解説文が掲載された雑誌をいくつか発見し、そこにはこの「日本のバラが生野から送られてきたこと」や「日本のバラの遺伝子を持つバラが生まれたこと」が記されていました。（以下略）

レオン・シスレー、は銀の馬車道の設計者です。1873年（明治6年）7月、生野鉱山長だった朝倉盛明とフランス人鉱山師フランソワ・コワニエが選んだレオン・シスレーを技師長として、馬車道の工事が始まりました。シスレーはコワニエの妻の弟（義弟）です。

彼はヨーロッパの土木技術「マカダム式」を導入して、道路を水田より60cm高くし、あら石、小石、玉砂利の順に敷きつめる馬車がスムーズに走行できるように、雨などの天候に左右されない排水性の高い堅固な道につくり変える工事が3年がかりで行われ、1876年（明治9年）に“日本初の高速産業道路”と言うべき「銀の馬車道」が完成しました。彼が生野に勤務したのは明治6年4月～明治10年1月の約4年間です。完成の翌年彼は31才の若さで帰らぬ人となったのです。



レオン・シスレー



銀の馬車道

「鉄のふしぎ博物館」

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかかりますよ。

ぜひお越しください。



藍銅鉱